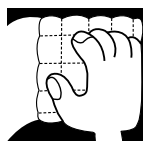
Pioneer sound.vision.soul

取扱説明書

S-SW5-K
S-SW5-S

パワードサブウーファー

このたびは、パイオニアの製品をお買い求めいただきましてまことにありがとうございます。
この取扱説明書をよくお読みになり、正しくお使いください。特に、本書および別冊の「安全上のご注意」は必ずお読みください。なお、「取扱説明書」および「安全上のご注意」は「保証書」、「ご相談窓口・修理窓口のご案内」と一緒に必ず保管してください。

お手入れについて

通常は、柔らかい布で乾拭きしてください。汚れがひどい場合は水で5〜6倍に薄めた中性洗剤に柔らかい布を浸してよく絞った後、汚れを拭き取り、その後乾いた布で拭いてください。アルコール、シンナー、ベンジン、殺虫剤などが付着すると印刷、塗装などがはげることがありますのでご注意ください。また、化学ぞうきん等をお使いの場合は化学ぞうきん等に付属の注意事項をよくお読みください。

音のエチケット

楽しい音楽も時と場所によっては気になるものです。隣近所への思いやりを十分にいたしましょう。ステレオの音量は貴方の心がけ次第で大きくも小さくもなります。
とくに静かな夜間には小さな音でも通りやすいものです。夜間の音楽鑑賞などには特に気を配りましょう。近所へ音が漏れないように窓を閉め、お互いに心を配り、快い生活環境を守りましょう。

サブウーファーご使用時のエチケット

サブウーファーは耳に聞こえにくい超低域振動音を再生しています。振動音は壁や床を通して漏れていきますので、音量には充分気を配ってください。

安全上のご注意　付属の「安全上のご注意」もお読みください

安全に正しくお使いいただくために

絵表示について

この取扱説明書および製品への表示は、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。その表示と意味は次のようになっています。
内容をよく理解してから本文をお読みください。

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

絵表示の例

△記号は注意（警告を含む）しなければならない内容であることを示しています。
図の中に具体的な注意内容（左図の場合は感電注意）が描かれています。

⃠記号は禁止（やってはいけないこと）を示しています。
図の中や近くに具体的な禁止内容（左図の場合は分解禁止）が描かれています。

●記号は行動を強制したり指示する内容を示しています。
図の中に具体的な指示内容（左図の場合は電源プラグをコンセントから抜け）が描かれています。

⚠警告

〔異常時の処置〕

● 万一煙が出ている、変なにおいや音がするなどの異常状態のまま使用すると火災・感電の原因となります。すぐに機器本体の電源スイッチを切り、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。煙が出なくなるのを確認して販売店に修理をご依頼ください。お客様による修理は危険ですから絶対おやめください。

● 万一内部に水や異物等が入った場合は、まず機器本体の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて販売店にご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。

● 万一本機を落としたり、カバーを破損した場合は、機器本体の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて販売店にご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。

プラグを抜け
⚠注意

● 機器本体の電源スイッチを切っても、電源の供給は停止しません。電源の供給を完全に停止するためには、電源プラグ(遮断装置)を抜く必要があります。旅行などで長期間この製品をご使用にならないときには、安全のため必ず電源プラグ(遮断装置)をコンセントから抜いてください。火災の原因となることがあります。

プラグを抜け
● 電源の供給を完全に停止するためには、電源プラグ(遮断装置)を抜く必要があります。万一の事故に備え、本機を電源コンセントの近くに設置し、電源プラグ(遮断装置)に容易に手が届くように設置してください。

プラグを抜け
愛情点検

長年ご使用のオーディオ製品の点検をおすすめいたします。こんな症状はありませんか
・電源コードや電源プラグが異常に熱くなる。
・電源コードにさけめやひび割れがある。
・電気が入ったり切れたりする。
・本体から異常な音、熱、臭いがする。

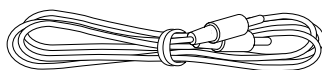
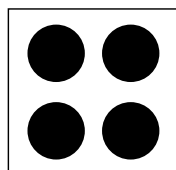
すぐに使用を中止し、電源プラグをコンセントから抜き、故障や事故防止のため電気店またはお近くのパイオニアサービスステーションに点検（有料）をご依頼ください。

特長

■ ターンオーバー周波数連続可変(１００〜２００Hz)。
■ 位相切換スイッチ（０°/１８０°）。
■ 入力信号の有無により、自動的に電源がスタンバイ（オフ状態）/オンに切り変わるオートスタンバイ機能。
■ オートスタンバイ機能をオン/オフに切り変えることができます。
■ アンプのサブウーファー用プリアウト端子に接続する入力端子。
■13 cmウーファーによる迫力の重低音。

ご使用の前に

付属品の確認

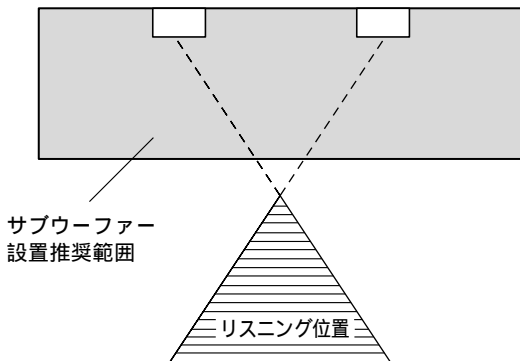
● RCAピンコード

● 滑り止めパット

● 取扱説明書（本書）
● 安全上のご注意
● 保証書
● ご相談窓口・修理窓口のご案内

滑り止めパッドの使いかた

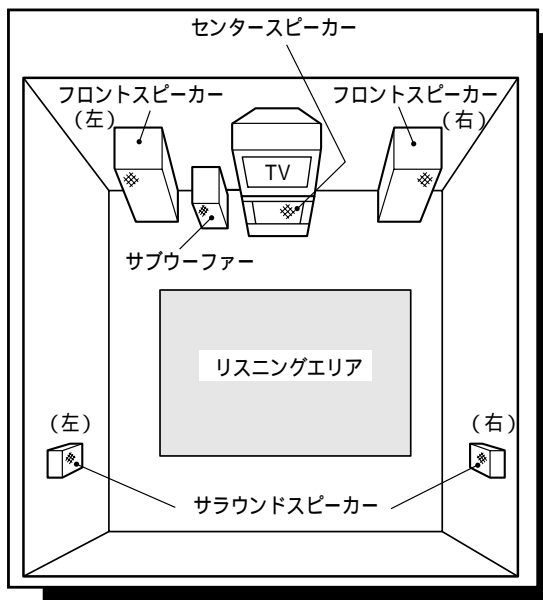
滑り止めパッドを紙からはがし、底面4ヵ所に貼り付けてください。

設置のしかた

スピーカーの設置

サブウーファーは、人間の耳が低音域において方向感覚が無くなることを利用し、重低音をモノラルで再生します。方向感覚が無くなるため、設置場所は、かなり自由になりますが、あまり離れた場所に置くと左右のスピーカーとの音のつながりが不自然になる場合があります。

- 本サブウーファーは床に設置することをおすすめします。

5.1チャンネルホームシアターとして使用する場合、下図のようなスピーカーの設置をおすすめします。

【設置例】

- テレビの近くに設置するスピーカーは防磁型のものをお使いください。
- 左右のスピーカーはテレビから等距離になるように設置してください。
- サラウンド（リア）スピーカーはリスナーの真横または少し後方で、耳の位置から約1m位上方に水平方向に設置すると効果的です。

設置上の注意

本機を設置する場合は、放熱を良くするため他の機器や壁などから十分な間隔をとってください(天面25cm以上、後面10cm以上、右側、左側各10cm以上)。また前側より5cm以上奥に押し込まないでください。本機と壁および他の機器との間隔がとれないと、内部に熱がこもり、性能不良または故障の原因になります。

次のような場所には設置しないでください

- ⃠ 直射日光を受けたりする場所、暖房器具に近い場所。
- ⃠ 風通しが悪く、湿気やホコリの多い場所。
- ⃠ 振動や傾斜のある、不安定な場所。
- ⃠ アルコール類やスプレー式の殺虫剤など、引火性のものを使用する場所。
- ⃠ チューナーのアンテナケーブルのそば。
- ⃠ カセットデッキなど、磁界に影響される機器のそば。

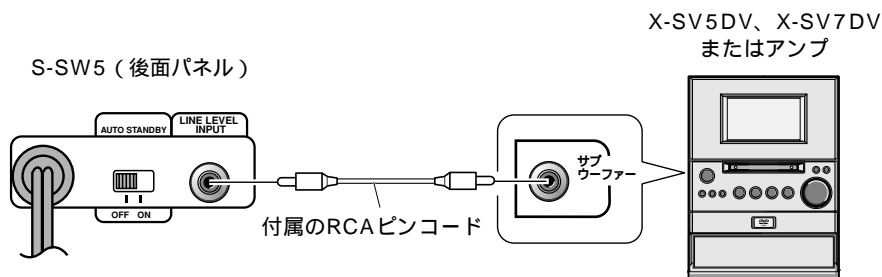
ご注意

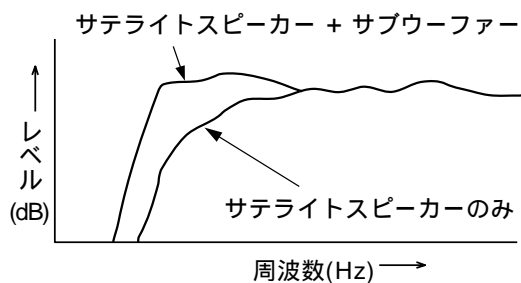
- 本機はテレビとの近接使用が可能なスピーカーシステムですが、設置のしかたによっては、色ムラが生じる場合があります。その場合は、一度テレビの電源を切り、15〜30分後に再びスイッチを入れてください。テレビの自己消磁機能より、画面への影響が改善されます。その後も色ムラが残るような場合には、スピーカーシステムをテレビからさらに離してご使用ください。

- 近くに磁石など磁気を発生するものが置かれている場合には、本機との相互作用により、テレビに色ムラを発生する場合がありますので、設置にご注意ください。

接続のしかた

機器の接続を行う場合、あるいは変更を行う場合には、必ず電源スイッチを切り、電源コードをコンセントから抜いてください。

付属のRCAピンコードで、本機のLINE LEVEL INPUT端子と接続します。

スピーカーシステムとの組み合せ

- サブウーファーと小型スピーカーシステムを組み合せると、下図の様な特性が得られ、低音域が増強されます。

- ドルビーデジタル*の再生においては、サブウーファーの専用再生チャンネルの設定を推奨しており、特にLFE（Low Frequency Effect=映画などの迫力を増すための地鳴りの様な効果音）の再生に対してS-SW5は有効です。

＊ドルビーデジタルについて

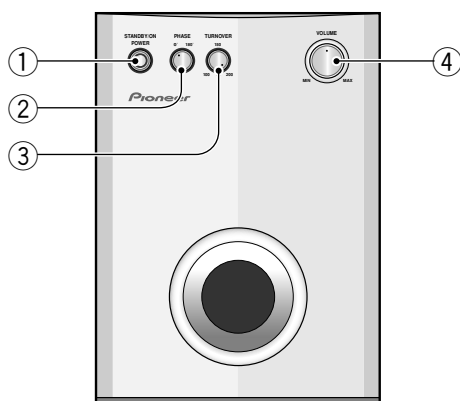
ドルビーデジタルは、ドルビーサラウンドからドルビープロロジックサラウンドと継続して発展してきたドルビーサラウンドのマルチチャンネル、デジタルシステムの名称です。

ドルビーデジタルは5.1チャンネルシステムとも呼ばれます。20Hz～20kHzまでの周波数範囲を持つ5チャンネル（フロント左、右、センター、リア左、右）と、独立したサブウーファー用チャンネルを持っているためです。サブウーファー用チャンネルは、LFE(Low Frequency Effect)とも呼ばれています。

LFEチャンネルは、迫力ある低音を楽しみたいときに好みに合わせて使用するチャンネルとしています。

各部の名称

前面パネル

後面パネル

① パワースイッチ (POWER)

スイッチを押すと電源がオンになり、もう一度押すとオフになります。

スタンバイ/オンインジケーター (STANDBY/ON)

電源がオンになるとパワーオンインジケーター(緑) が点灯します。電源がスタンバイ(オフ状態)になるとスタンバイインジケーター(赤)が点灯します。

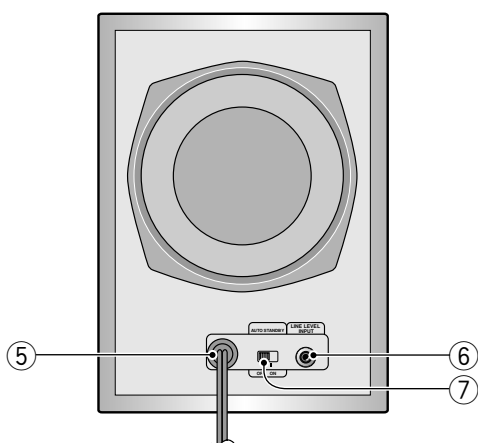
② フェーズつまみ (PHASE 0°/ 180°)

右にひねると (180°) 入力信号に対し出力の位相を逆にします。左にひねると (0°) 同位相になります。通常は左右のスピーカーが密閉式の場合0°、バスレフ方式の場合180°で使用します。サブウーファーと左右スピーカーの音のつながりが不自然に聞こえる場合は、切り換えてみて自然に聞こえる方に設定してください。

③ ターンオーバーつまみ(TURN OVER)

サブウーファーで再生する周波数の上限を設定します。

- 設定の目安

100Hz ..... 左右スピーカーの口径が20センチ以上の場合。
150Hz ..... 左右スピーカーの口径が12～20センチの場合。
200Hz ..... 左右スピーカーの口径が12センチ以下の場合。

④ ボリュームつまみ(VOLUME)

サブウーファーの音量を設定します。

- 最小 (MIN) 位置からゆっくりと回してください。
- 本機は独自に重低音のレベルを設定できますので、ステレオアンプ側で低音の増強をしないでください。

⑤ AC電源コード

壁のACコンセントへ接続します。

⑥ ラインレベルインプット端子 (LINE LEVEL INPUT)

サブウーファー用のプリアウト端子付のアンプと、付属のRCAピンコードで接続します。

⑦ オートスタンバイ切り変えスイッチ

オートスタンバイ機能 (7ページ参照) をONまたはOFFにします。

⚠ 注意

パワーオンインジケーターが消灯している状態でも、電源の供給は停止しません。旅行などで長期間この製品をご使用にならないときには、安全のため必ず電源プラグ(遮断装置)をコンセントから抜いてください。火災の原因となることがあります。

プラグを抜け

使い方

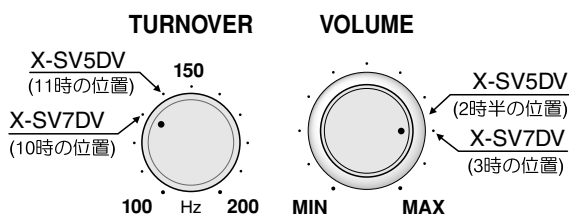
1．パワースイッチ①をオンにします。

電源を入れるときは、アンプの電源をオンにしてから本機をオンにしてください。電源を切るときは、本機の電源をオフにしてからアンプをオフにしてください。

2．アンプを操作して音を出し、左右のスピーカーの音量を調整します。

3．ボリュームつまみ④で低音の強さを調整します。

必要に応じてフェーズつまみ②とターンオーバーつまみ③を操作し、更にボリュームつまみ④で調整してください。なお、X-SV5DVまたはX-SV7DVと接続する場合、フェーズつまみは180°、ターンオーバーつまみとボリュームつまみは以下の位置に合わせることをおすすめします。

③ターンオーバーつまみ　④ボリュームつまみ

4．使用後はパワースイッチ①をオフにします。

パワーオンインジケーターが消灯します。

● オートスタンバイ機能

オートスタンバイ切り変えスイッチ⑦をON (お買い上げ時はOFFになっています) にすると、オートスタンバイ機能が働きます。入力信号が無い状態で約8分間が経過すると、電源が自動的にスタンバイ状態 (オフ状態) になります。入力信号が入ると自動的に電源がオンになります。

ご注意

使用する環境によって、周辺機器からのノイズなどの影響を受けてオートスタンバイ機能が働き、電源がオンになってしまうことがあります。そのようなときはオートスタンバイ切り変えスイッチをOFFにして、パワースイッチで電源のオン・オフをしてください。

メモ

本機を長時間ご使用にならない場合、パワースイッチをOFFにして、節電することをおすすめします。

故障かな？と思ったら

故障かな？....と思ったらちょっとチェックしてみてください。意外な操作ミスが故障と思われています。また、本機以外の原因も考えられます。ご使用の他の機器および同時に使用している電気器具も合わせてお調べください。

症　状	原　因	処　置
電源が入らない。（パワースイッチを押してもインジケーターが点灯しない。）	● 電源コードが正しく接続されていない。	● プラグを正しく接続してください。
音が出ない。 （インジケーターは緑、または赤に点灯する。）	● VOLUMEつまみがMIN位置になっている。 ● RCAピンコードの接続が正しくない、または外れている。 ● 接続したアンプが、サブウーファーに出力される設定になっていない。	● VOLUMEつまみをゆっくり右に回してください。 ● 接続を確認し、正しく接続してください。 ● アンプの設定をサブウーファーに出力されるようにしてください。
音が歪む。	● 音量が大きすぎる。	● VOLUMEつまみを左に回し、音量を下げてください。
発振（大きな音が連続的に出る）する。	● 本機の音量が大きすぎる。	● VOLUMEつまみを左に回し、音量を下げてください。
スタンバイ状態にならない。	● オートスタンバイ切り変えスイッチがOFFになっている。	● オートスタンバイ切り変えスイッチをONにしてください。

保証とアフターサービス

保証書（別添）について

保証書は必ず「販売店名・購入日」などの記入を確かめて販売店から受け取っていただき、内容をよくお読みの上、大切に保管してください。
保証期間はご購入から１年間です。

補修用性能部品の最低保有期間

ステレオの補修用性能部品の最低保有期間は製造打ち切り後８年です。性能部品とはその製品の機能を維持するために必要な部品です。

修理に関するご質問、ご相談は

お買い上げの販売店または、お近くのパイオニアサービスステーションをご利用ください。
所在地、電話番号は別添の「ご相談窓口・修理窓口のご案内」をご覧ください。

修理を依頼されるとき

7ページにしたがって調べていただき、なお異常のあるときには、ご使用を中止し必ず電源プラグを抜いてから、お買い上げの販売店または、お近くのパイオニアサービスステーションにご連絡ください。

連絡していただきたい内容

- ご住所
- お名前
- 電話番号
- 製品名：パワードサブウーファー
- 型番：S-SW5-K、S-SW5-S
- お買い上げ日
- 故障または異常の内容の状況（できるだけ詳しく）
- 訪問のご希望日
- ご自宅までの道順と目標（建物、公園など）

■保証期間中は…

修理に際しては、保証書をご提示ください。保証書に記載されている当社の保証規定に基づき修理いたします。

■保証期間が過ぎているときは…

修理すれば使用できる製品については、ご希望により有料で修理いたします。

仕 様

アンプ部

実用最大出力 (100 Hz, 10 %, 4 Ω) .... 20 W
入力端子 (LINE LEVEL) .... 135 mV/22 kΩ
ターンオーバー周波数 . 100～200 Hz (連続可変)
位相切換 .... 0 ° /180 ° (切換)

スピーカー部

形式 .... バスレフ方式フロアー型、防磁設計 (EIAJ)
スピーカー .... 13 cmコーン型

電源部・その他

電源 .... AC100 V、50/60 Hz
消費電力 .... 18 W
待機時消費電力
　スタンバイモードON .... 0.5 W以下
外形寸法160 (幅) X 220 (高) X 313 (奥行) mm
質量 .... 5.1 kg

付属品

RCAピンコード (3 m) 1
滑り止めパッド 4
取扱説明書 1
安全上のご注意 1
保証書 1
ご相談窓口・修理窓口のご案内 1

- 本機の仕様および外観は改良のため予告なく変更することがあります。

お客様ご相談窓口(全国共通フリーフォン)

カスタマーサポートセンター

● 家庭用ｵｰﾃﾞｨｵ／ﾋﾞｼﾞｭｱﾙ製品のお問い合わせ窓口　フリーフォン 0070-800-8181-22

● カタログのご請求窓口　フリーフォン 0070-800-8181-33

＜ご注意＞ ● ＰＨＳ、携帯電話、自動車電話、列車公衆電話、船舶電話、ピンク電話および海外からの国際電話ではご利用になれません。予めご了承ください。
● 修理に関しては別添の『ご相談窓口・修理窓口のご案内』をご覧ください。

※ホームページでのカタログ請求とメールサービス登録のご案内

http://www.pioneer.co.jp/support/ctlg.html

パイオニア株式会社　〒 153-8654 東京都目黒区目黒1丁目4番1号

<TFJZZ/02F00000>　<SRA1385-A>